



公益社団法人 北海道社会福祉士会

機関紙

かわら版

No.58
2021.10



目 次

1 新会長 ご挨拶	2
2 新副会長 ご挨拶	3 ~ 4
3 新体制、委員会担当理事紹介	5
4 新人社会福祉士の紹介	6
5 ベテラン社会福祉士の視点	7 ~ 8
6 地区支部からのお知らせ	9
7 ブレイクタイム（ナンプレ②）	10
事務局からのお知らせ	10

— 会員の動向（8月31日現在） —

- 総会員数 1,844名
- 入会率 15.59%
- 新入会員数（転入含） 75名（累計）
- 退会員数（転出含） 10名（累計）

発行人 出町 勇人

発行所 事務局

編 集 企画総務委員会
(委員長 綱渕 美穂)

— 会員の皆様へ —

LINE公式アカウント（旧LINE@）、
公式Facebook未登録の方は
ぜひご登録ください。



LINE公式アカウント
(旧LINE@)



公式Facebook（フェイスブック）
(<https://www.facebook.com/hokkaidocsw/>)



〒060-0002

札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2.7 4階

TEL.011-213-1313 FAX 011-213-1314

メールアドレス info@hokkaido-csw.or.jp



ユニバーサルデザイン(UD)の考え方に基づき、
より多くの人に見やすく読みまちがえにくい
デザインの文字を採用しています。

【新会長 ご挨拶】

公益社団法人北海道社会福祉士会
会長 出 町 勇 人

会員のみなさま、こんにちは。本年6月26日に開催されました第23回定期総会にて理事に選出され、同日の臨時理事会において会長に就任いたしました出町勇人です。平素より、当会の運営に対しご理解、ご協力を賜りありがとうございます。この紙面をお借りして、あらためてご挨拶を申し上げます。

私は現在、札幌市東区保健福祉部にて生活保護の部署に勤務しており、生活扶助や医療扶助の支給の管理、ケースワーカーの研修などを担当しています。社会福祉士登録は2016年4月で、専門職としてはまだまだ未熟者であります。これからみなさまとともにさらに研鑽を重ねてまいりたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

本会の現下の体制ですが、前期同様、理事立候補が定款で定める定数に1名満たず、神内前会長に引き続き理事に残留していただきようやく定足数を満たすという厳しい船出となりました。また、私を含め半数が新任です。しかしありがたいことに、前期まで理事として重責を担っていた3人の副会長に加え、役職経験豊富な清野さんと竹田さんを相談役としてお迎えすることができました。盤石とはいえないかもしれませんのが、これまでの経験に学びながら、理事同士、また会員のみなさまとも十分にコミュニケーションを取って運営に努めてまいりたいと思います。



さて、現在もコロナ禍の中、会員のみなさまにおかれでは、職務遂行にご苦労されていることと存じます。会の活動においても、各種会議や研修、セミナー等は、オンラインツールを活用して行うことが日常となり、私どもも試行錯誤しながら進んでいる状況です。不慣れな中、ご迷惑、ご心配をお掛けしていることも多々あり、お詫びしなければなりません。しかしながら、メリットを見出してもおります。広大な北海道の地で活動するにあたり、移動や業務調整の手間、時間、コストが課題でしたが、オンラインツールによって相当解決しています。一方で、対面・集合ならではの良さも再認識させられています。まもなくコロナ禍が収束することを願い、アフターコロナを見据え、ICTを活用した事務の効率化を進めるとともに、会員の皆様にとって有益な事業のあり方を追究していきます。

私は、本会のホームページで、道民一人ひとりが自分らしく生きていける地域共生社会の実現のため、専門職として身につけた知識や技術により、QOL（生活の質）とウェルビーイング（人としての幸せ）向上の実践を続けていく責務を申し述べました。ミクロ、メゾ、マクロのどの領域においても、多職種連携、ネットワークづくりの必要性・重要性は高まる一方であると思います。社会課題の解決に向け、本会がその一助となるよう真摯に取り組む所存です。今後ともよろしくお願ひいたします。



【新副会長 ご挨拶】

副会長 今 井 敦



この度、北海道社会福祉士会の副会長を務めさせていただくことになりました、今井と申します。

道北地区(旭川)の地域包括支援センターで勤務しており、理事としては2期目となります。6月に開催されました定時総会におきまして、理事としての信任をいただき、ありがとうございました。

現在、社会福祉士は様々な分野でその役割が求められており、職域も広がってきているところです。本会としても約1,800名の会員で構成される団体となり、会員の皆様の様々なニーズに応えていけるような活動が必要であると実感しており、皆様が日々、地域の中で実践されている活動に対し、本会としてもその活動の一翼を担うことができるよう、また、7つの地区支部に分かれているこの広大な北海道の特性も踏まえ、各地区支部に対し、本会として発信する様々な情報や活動が伝わることや各地区支部間のスムーズな情報交換、理事会の動きがしっかりと見えるような組織運営を心掛けていきたいと思います。

併せて、社会福祉士の活躍の場がさらに広がるよう、職能団体の役割や社会福祉士の魅力を地域・関係機関に対して発信する、普及・啓発の活動も必要だと考えております。

私個人では微力ではありますが、出町会長、岩佐副会長、澤田副会長、12名の理事、そして何より会員のみなさまと一緒に取り組んでいきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



副会長 澤 田 憲 一



この度、第23回定時総会後の臨時理事会において、副会長を拝命しました澤田です。北海道の理事としては2期目になります。

現職は、道東の別海町役場福祉部福祉課社会・障がい福祉担当で、主に障がい福祉や地域福祉関係の業務を行っており、所属は釧根地区支部です。

初めて理事に就任した1期目は、障がい者等地域生活支援委員会の委員長と、企画総務委員会、生活困難者支援委員会の担当理事を担わせていただきましたが、当初は例年どおりの集合研修等を開催出来たものの、1年経たずに新型コロナウイルス感染症が流行し、事業の大部分を見直さなければならなくなりました。また、2年目は会議や研修会をオンラインで行うために、使用したことのないZoomなどのWEB会議ツールを一から学び、試行錯誤しながら事業の継続に努めた1年間でした。

今期につきましては、副会長としてこれまでの3委員会に加えて、子ども未来部会を所管することになりましたが、研修会等の更なる充実や、アフターコロナを見据え

た新たな会運営、事業の在り方等について検討していくとともに、会員の皆さんにメリットを感じてもらえるよう邁進していく所存です。

個人的には、真面目な研修会ばかりではなく、会員同士が楽しく交流できる企画等を実施していきたいと企んでいますが、新型コロナウイルス感染症の収束はまだまだ先が見えない状況ですので、まずは、オンライン研修会等に積極的にご参加いただければ嬉しいです。今後ともよろしくお願ひいたします。



副会長 岩 佐 宏 希



私はこのたび北海道社会福祉士会副会長の職をさせていただくことになりました道南地区支部の岩佐宏希と申します。北海道社会福祉士会理事の職務は今期で2期目となります。道社会福祉士会の事業運営では、ぱあとなあ北海道運営委員会と司法分野との連携委員会の担当をさせていただくことになりました。

2019年度末から続く新型コロナウイルス感染症の影響により道社会福祉士会が計画してきた事業はそのほとんどが中止もしくはオンライン開催とせざるを得ない状況が続いてきました。この状況は今後もしばらくは続くことと思います。そのような中で会員の皆様のメリットになる会の活動はどのようなものなのか、日々検討が繰り返

されています。前向きに捉えると新型コロナウイルス感染対策として始められたオンラインでの委員会活動や研修事業がこの広い北海道においてつながりを作るための良い方法なのかもしれませんと私は思っています。

社会福祉士への期待は年々高まっています。その一方で昨年、北海道社会福祉士会の会員が成年後見活動における不正行為により除名処分を受けたという社会福祉士の信頼失墜につながりかねない事案も発生しました。北海道としても今一度倫理綱領に立ち返った活動ができるような研修会の開催など再発防止に取り組んでいかなければならぬと思います。

最後になりますが、今後も会長や副会長、理事や会員の皆様と協力しながら会員の皆様にとって有意義な会の運営となり、社会福祉士の活動をさらに積極的に発信できるよう努力してまいりますのでよろしくお願いします。



【新体制、委員会担当理事紹介】

新体制が決まりましたのでお知らせします。

(任期：2021年総会から2023年総会までの2年間)

会長 出町 勇人（道央地区支部）

副会長 今井 敦（道北地区支部）、岩佐 宏希（道南地区支部）

澤田 憲一（釧根地区支部）

内部監事 大内 高雄（道央地区支部）

外部監事 石塚 慶如（札幌弁護士会）

相談役 清野 光彦（十勝地区支部）、竹田 匡（釧根地区支部）

☆は委員長

委員会名	担当正副会長	担当理事	地区支部
企画総務委員会	澤田 憲一	☆ 綱渕 美穂 ☆ 梶川 幸雄 渡辺洋一郎	道北 オホーツク 十勝
子ども未来部会		☆ 梶川 幸雄 綱渕 美穂	オホーツク 道北
生涯研修委員会	出町 勇人	☆ 奥山英梨香 國松 直人 久保田眞弓 島崎 顕生 山口 潤	道南 日胆 釧根 道央 十勝
ぱあとなあ北海道運営委員会	岩佐 宏希	☆ 新田 雄大 北村 満広	釧根 道北
現場実習指導者研修委員会	今井 敦	☆ 北村 満広	道北
ケアマネジメント委員会	出町 勇人	☆ 神内秀之介	道央
地域包括支援センター支援委員会	今井 敦	☆ 島崎 顕生 渋谷 昌広	道央 道南
障がい者等地域生活支援委員会	澤田 憲一	☆ 國松 直人	日胆
生活困難者支援委員会	澤田 憲一	☆ 渡辺洋一郎 奥山英梨香	十勝 道南
災害対策委員会	出町 勇人	☆ 山口 潤 渋谷 昌広	十勝 道南
司法分野との連携特別委員会	岩佐 宏希	☆ 久保田眞弓	釧根
福祉サービス第三者評価事業推進機構	出町 勇人	☆ 神内秀之介	道央

【新人社会福祉士の紹介】①

氏名：箭内 姫花（23歳）
所属：道北地区支部
利尻町役場くらし支援課
地域包括支援センター



昨年に専門学校を卒業し、社会福祉士を取得しました。現在は、利尻町地域包括支援センターで働いています。現在の職場を志望したきっかけは、相談援助実習で地域での個別支援の重要性と、社会的孤立について考えさせられた事例との出会いから地域でのソーシャルワーク実践について現場で学びたいと思ったことです。

現在は、個別支援での実践や、自然発生している住民さん同士のつながりから地域について学ぶことが多いです。そして今後も住民さんから教わりながら地域でのソーシャルワーク実践について学ばせていただきたいと思っています。

そして、自己研鑽の機会として社会福祉士会の方にも入会させていただいております。今後も社会福祉士の皆様、そして他職種の皆様、福祉に関わる皆様から、様々な場面でご教示いただければと思っています。今後ともよろしくお願ひいたします。



【新人社会福祉士の紹介】②

氏名：小笠原 匠梧
所属：道南地区支部
社会福祉法人函館一条
多機能型事業ワークセンター一条



大学在学時に障害福祉を学び始めたのがきっかけとなり、視覚障害のある方への支援施設で相談援助実習を経験しました。施設では生活訓練として利用者さんのニーズに合わせた支援を提供しており、その際に出会った支援員の方々が利用者さんに親身になって向き合って支援する姿に感銘を受け、私自身も同じように福祉の仕事に就きたいと考えるようになりました。就職後は成年後見の業務に興味を持ったため勤務しながら社会福祉士会の基礎研修を受講しています。

現在は知的障害や自閉症スペクトラム障害のある方の通所施設で生活支援員として勤務しています。利用者の生活を支援することの難しさと責任を感じますが、安心して過ごしていただけるよう試行錯誤の毎日です。勤務して4年目を迎えまだ未熟ですが、今まで学んできた社会福祉士として必要な権利擁護やエンパワメント、受容と傾聴などの様々な視点や技法は生活支援員として支援する上でも共通して重要なと感じています。

今後も利用者さんにとってより良い支援を行えるよう学び続けて精進していきたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

【ベテラン社会福祉士の視点】①

氏名：大塚 彰（56歳）

所属：日胆地区支部

社会福祉法人 天寿会

社会福祉士の資格を取得したのは平成9年のことですが、私は福祉の仕事に携わって30年以上が経ちます。大学卒業後、就職した法人で現在も働いておりますが、新人の頃は障がい者施設で生活指導員としてワーカー業務に携わっておりました。

脳血管障害などの重度の身体障害者に対するリハビリテーションを通じ社会復帰・家庭復帰を目的とした施設で働いていたため利用者の生活相談だけでなく、将来の方向についても一緒に考え支援しておりました。

リハビリの期間中にご家族の状況が変化し家庭復帰の目途が立たなくなったり、身体機能が思うように回復せず利用者の望んだ生活とのギャップにより将来を悲観されたり、他施設利用を余儀なくされる利用者も多数おりました。

そのような状況において私はワーカーとして、退所後の生活に向けて利用者・ご家族の思いに寄り添い受容しながら、回復の状況や自立度など現状を踏まえ丁寧に話し合いを重ね、出来る限り利用者に適した環境が提供出来るよう心掛けておりました。

しかし、当時は今よりもワーカーとして未熟だったため、利用者にとって不本意な結果となつたこともあったと思います。職場の先輩ワーカー達に相談や指導を受けながら、自分なりにキャリアを重ねてきました。

こうした私自身の経験から言えることは、我々社会福祉士は、先輩や同僚に助けられるだけでなく、色々な分野の専門職や関係機関、地域等多くの人たちの協力や支えがあり成り立っています。キャリアを重ねていくとワーカーとして支援のイメージを組み立てる過程において、過去に経験した支援のパターンにはめ込もうとしてしまい、それが最適な支援であるかのように思い込んでしまうことがあります。利用者の個別性、選択性が尊重されていたのか、支援の過程において自分自身の振り返りも不十分となってしまうこともあるのではないかと思います。

私自身はこうした悩みを抱えていましたので、自身の成長に繋がればと思い設立当初より入会し、様々な分野の社会福祉士と接し、支部研修などへも参画することで大いに刺激を受け、学びを得ることで自身のキャリアアップに繋がったのではないかと思います。また、会員同士「顔の見える関係」を築くことができ、更に会員を通して他職域の方々とも知り合う機会も生まれるなど、ネットワークが広がったことは、今日でも私の財産となっており感謝しております。



【ベテラン社会福祉士の視点】②

「人とのつながりを大切に」

～約束と信頼の関係～

氏名：石川 尚樹（57歳）

所属：十勝地区支部

社会福祉法人 帯広太陽福祉会

救護施設 東明寮



を持っていると言えるとき、約束をする能力を有する人となり、信頼に値する人として周りに扱われることになるというわけです。

しかし、一方で未来はあくまでも分からぬものであり、現時点で相手を信じて未来の約束を結ぶということは、「冒険」でもあり「賭け」でもある。さらに、「分かるはずのない未来」に対して、本来とれるはずのない「決定的態度」を「それでも」取ろうとすることを「今」相手に対して表明する事だと言っています。あなたがいるからこそ決めたのだという、「今」の「決断」こそ「約束」の要点だ。」と言っています。

人と関わる時に「約束」という言葉は必ずついてくるものです。事の大小はあります、私たちは普段から施設利用者、職員、会員、そして家族とも約束します。でも約束通りいかない事は、日常的に起きますし、私自身起こしているのでしょうか。でも、そんな時私達は、約束したのにどうして守ってくれないの？と思うわけです。しかし、約束は、わからないはずの未来に対して本来取れるはずのない決定的態度を、それでも取ることならば、守ってくれない事に要点があるのではない。相手を信じて冒険するものもあり、賭けることでもあるということです。あなただからこそ決めたのだという信頼の証として。

これからも、この信頼の証を大事にして人と関わり続けたいと思います。

※「急に具合が悪くなる」 宮野真生子、磯野真穂
昌文社 2019年

私は救護施設で働いています。縁があり今の職場に来て、ちょうど20年が経過しました。この間、社会福祉士の資格も取得して社会福祉士会に入会し、仕事とともに会でも様々な経験をさせていただく中で、仲間の大切さ、人を信じることの大切さを感じています。

信頼を考える時、哲学者の宮野真生子と人類学者の磯野真穂の「急に具合が悪くなる」という本に約束と信頼について書かれたものを思い出します。がんのため余命宣告を受けた宮野と、たまたま仕事で係わる事となった磯野との往復書簡の形式で書かれた本で、約束と信頼について宮野真生子が書いた部分を要約してみます。

「哲学者の和辻哲郎は、約束を信頼と言う観点から考えています。私たちが社会で日常を生きていくうえで最も重要な倫理的基礎は「信頼」にあると言っています。その空間に基いた人間関係の暗黙のルールにみな従うだろうと互いを信頼している。すなわち信頼とは「わからないはずの未来に對してあらかじめ決定的な態度をとること」と定義しています。約束とは、こうした分からぬ未来を前に、時間を超えて、未来を現実と一致させることができる能力

【地区支部からのお知らせ】

【道央地区支部】

今後の研修会の予定

10/30(土)10時～12時権利擁護セミナー

10/30(土)13時～15時司法福祉セミナー

3/26(土)10時～12時社会福祉セミナー

会員サロン各10時～12時

11/3(水・祝)テーマ「保護観察所の理解」

12/11(土)テーマ「女性支援と生活困窮」

3/5(土)テーマ「放課後等児童デイ」

※詳しくは道央地区支部ホームページをご覧ください。

【道北地区支部】

道北地区支部では、今年度に入ってから各種研修・勉強会等をオンラインで実施してきています。さる6月19日に春季セミナーを、6月4日と8月5日にはWEB勉強会・意見交換会を、いずれもオンラインにて実施しています。まだまだ新型コロナウイルス感染症の収束は見通せない状況であり、集合での研修が難しく実施のめどが立たないところですが、オンラインなどの活用を図り、可能な限りの活動を行っていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

【日胆地区支部】

8月12日に全体会を開催し、今年度事業計画を決定しました。時節柄オンライン中心の研修計画となります。新型コロナの感染状況をみて、サテライト会場を設定したハイブリッドの研修も企画したいと考えています。このような時期だからこそ、会員相互の繋がりや、専門職としての役割を再認識し、活動していきたいと思います。

【十勝地区支部】

十勝地区支部では、各種研修などの打ち合わせもオンラインを活用して行っています。成年後見部会ではフォローアップ研修会を9月6日に開催し17名が参加し学びました。今年度は全4回を予定します。今後の取り組みとして「社会福祉セミナー」の開催、気軽に語れるテーマを設定しながら「ソーシャルワークCafe」を10月から開催

予定です。

オンラインの活用など工夫しながら取り組みを進めていきます。

【オホーツク地区支部】

7月3日(土)、講師に札幌医科大学医学部神経精神医学講座の河西千秋主任教授をお招きし、「自殺企図行動と自殺企図者への理解」をテーマに、社会福祉セミナー(オンライン)を開催しています。56名の参加があり、社会福祉士のみならず様々な専門職間で自殺対策への理解を深めることができました。

今後は、会員向けの学習会や、釧根、十勝両支部と合同で道東社会福祉士のつどいを開催予定です。

【釧根地区支部】

今年度もオンラインを中心に研修会等を企画し5月、7月、8月はオンライン交流会の実施。6月はオンラインで全体会と意思決定支援研修会を開催しました。

顔を会わせる機会が減り寂しいですが、遠方の方が多く参加できるメリットを感じています。オンラインで多くの会員に興味をもって参加してもらえる企画を日々検討しています。

【道南地区支部】

現在も続く新型コロナ禍の中、8月31日(火)に道南地区支部定例学習会・全体会をZoomで開催しました。

学習会では西里会員より、2018年度から開始した「SSW(スクールソーシャルワーカー)の会」の活動が報告されました。全体会では昨年度の活動報告、各運営委員からの委員会活動等の紹介があり、また、今年度新たに就任した道理事がその役割や抱負を述べた後、今後の活動について参加会員と意見交換を行いました。

昨年度は新型コロナ禍により、支部活動が停滞していましたが、この定例学習会・全体会開催をきっかけに、今年度は活発な活動が行えるよう進めて参ります。

【ブレイクタイム（ナンプレ②）】

空いているマスに1～9の数字を埋め、A～Cに入る数字を当てはめ、福祉に関する年号を答えてください。答えを応募していただくと、正解した会員の中から3名の方に景品をプレゼントします。

			8			3	1	
3	1			7	2			
9	8	5	3	1			4	
			7				9	
B	7	2		9	C	1	6	
5	A			3				
3			4	7	9	8	5	
			6	3		2	4	
2	4			5				

【ルール】

- タテ、ヨコ、3×3の小さなマス内に1～9の数字が入ります。
- タテ1列、ヨコ1列には、同じ数字が入りません。
- 3×3の小さなマスにも同じ数字は入りません。

【答え】

1 A B C 年

ヒント

パラリンピックに関する年号です。

【応募方法】

件名を「ナンプレ懸賞について」とし、本文に①氏名 ②会員番号 ③答え ④本誌の感想などを入力し、11月30日（火）までに下記メールアドレスへ応募してください。

抽選で3名様に、3千円相当の景品が当たります。

回答及び当選者は次号に掲載します。

（懸賞応募先メールアドレス info@hokkaido-csw.or.jp）



【前号の答え】 = 1987年

※社会福祉士及び介護福祉士法が公布された年です。

【前号の当選者】

橋本政人さん（日胆支部）、浜尾勇貴さん（釧根支部）、木下八代恵さん（道北支部）以上の3名でした。おめでとうございます！



【事務局からのお知らせ】

7月末にお送りした「会員登録情報の確認」について、まだお返事をいただいている方が多数いらっしゃいます。

全会員からのお返事が必要ですので、ご協力をよろしくお願ひいたします。

